



TOPICS

手話の取り組み

当協会は、会長が代わり、組織も改編されました。これを契機に新たな試みを積極的に取り入れて、より良い健診を目指します。その一つとして、受診者に寄り添うべく、手話に取り組みました。表紙イラストはこれら「変革しつつある協会の今」を手話で表現しています。

アフタヌーン健康診断を受けてみませんか？



朝の忙しい時間帯に受けることができなかった健診を、自分の生活リズムに合わせて受診することができます。お子様がいらっしゃる方は、予約の際にご相談ください。安心して受診できるよう配慮いたします。健診内容としては、特定健診、市民健診、各種がん検診の受診が可能です。(詳しくは、下記までお問い合わせください)

突然ですが、こんな経験はありませんか？

- “健康診断だけで病院に行くのは、病気を患って訪れた人に対して気が引ける感じがする…”
- “従業員に健康診断を受けさせたいが、就業時間帯の受診は業務との兼ね合いがあるので調整に苦慮している”
- “健康診断は受けたいが、仕事や家事が忙しくて時間がない”

全部まとめてアフタヌーン健康診断で解決しましょう！

おすすめ POINT

1. 健康診断を主たる業務にしているため、安全・安心で快適に受診できる
2. 仕事への影響を少なくするために、少人数で、複数日にわたる受診計画の提案が可能
3. 受付時間が午後6時までなので、都合に合わせて受診希望に沿った予約ができる

受付時間 15:00~18:00(月~木)

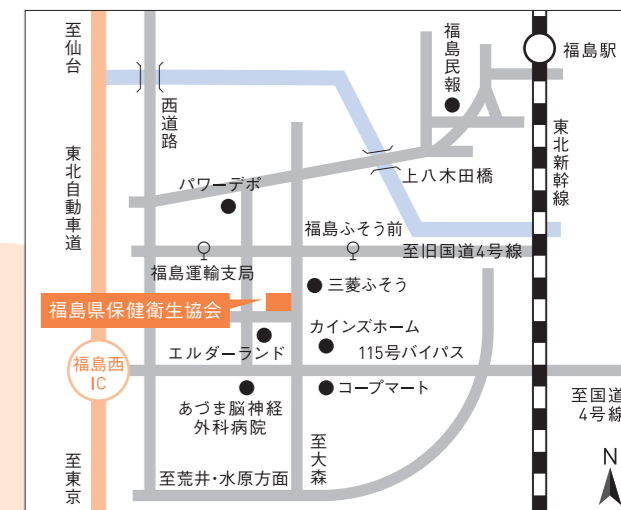
場所 公益財団法人
福島県保健衛生協会 総合健診センター
〒960-8550 福島市方木田字水戸内19-6

TEL 024-546-3533《完全予約制》

ご予約・お問い合わせ時に「アフタヌーン健診」とお伝えください

音声検索 スマホで「衛生協会」と呼びかけてみてください！

公益財団法人 福島県保健衛生協会 総合健診課 医事係



令和元年5月29日に開催された第18回理事会の総意を得て、会長の大役をお任せつかることになりました。前任の鈴木仁会長が十三余年にわたって粉砕身され、屋台骨をしっかりと築きあげた協会をお引き受けるにあたり、身の引き締まる思いであります。

昨今、健(検)診業界を取り巻く環境は一段と厳しさを増しておりますが、疾風の中であっても勁草となり、協会を発展させるのは私たちの責務です。時代の潮流に即応した「新たな事業展開」を模索し、その課題解決に向けて行動しなければならぬと思っております。

福島県民の健康に対する当協会の役割

健診への社会的要望は、科学的な視点とエビデンスに基づいた総合健診と保健指導の実施にあり、当協会は福島県民の健康保持・増進に重要な責任を担っております。平成29年度の福島県の死因は、心疾患が全国ワースト6位(前年7位)、脳血管疾患が7位(同8位)であり、いずれも前年より悪く

なっています。

福島県は本年4月に知事をトップとした健康増進組織「健康長寿ふくしま会議」を発足させ、県民の健康指標に対する危機意識を共有することで、喫緊の課題改善に向けて動き出しました。当協会は今まで、予防医学事業に40年以上携わってきました。これら過去の実績と多くの貴重なデータがありますので、当協会としても県の取り組みに、積極的に協力して参ります。

健診機関を取り巻く環境の変化に対応するためには、何が必要か？

基本方針である「迅速・正確・奉仕」の精神に則り、時代の潮流に即した「新たな事業展開」を模索しつつ、その課題解決に向け行動して行かねばなりません。そのためには、できないこととの言い訳を探すのではなく、できるための方策を見つけ出し、課題の克服に挑むことが今、職員に求められています。一般的に正しいとされている事象から妥当と考えられる結論を導き出す演繹的な考え方も大切ですが、不確定要素の多い現場では帰納法的な考え方、すなわち、臨機応変に目の

前にある人手、機器類、予算などにおいて最大限の努力を行い、ここで結果に結びつけることが重要となります。

今後、どのような取り組みを行うか？

目指すべき次のステップに進むためには、私も含めた全ての職員がコンプライアンスを遵守し、社会から信頼される品性と品格を持った存在となることを目指す必要があります。また、事業展開に必要なことは、風通しの良い明るい職場環境の中で、一人ひとりの職員の仕事の役割を明確にし、個々が責任を持って行動せねばなりません。このことにより、組織の一体感が一層高まり、互いの信頼関係も強固なものとなって効率の良い組織になるはずです。これら実行にあたり、仕事上の境界領域が多くなった場合には、お互いに連携し合い、一致団結して効果的、効率的に課題の解決を積極的に図り、難局を乗り切る意欲が重要になってきます。

全国に誇れる健康長寿を目標に掲げる福島県。当協会は、それら成就のための一翼を担うべく、地域に密着した、信頼される組織を目指し、職員一丸となって事業に取り組んで参ります。

当協会の取り組み

手話

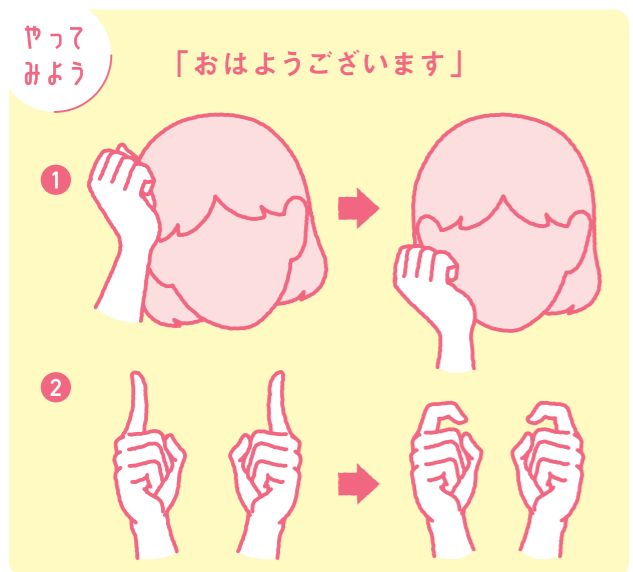
I MADE NEW PROJECT!

福島県保健衛生協会から発信する新たな取り組み「手話」についてご紹介します。

Q 手話講座開催のきっかけは？

聴覚障がい者(以下、障がい者)の方が安心して健診を受けられるように、健康支援課では、昨年、障がい者の満足が得られるよう対応策を考えました。まず、健診スタッフ間で事前ミーティングを行い、コミュニケーションの取り方や注意点を確認し合いました。併せて、障がい者に健診に関するアンケートを依頼し、改善できるものがあればその都度修正を加えていきました。コミュニケーションの取り方では、身振りでも筆談でも相

手に伝えたい気持ちが大切だと思っておりましたが、アンケート調査の結果では、「できれば、手話のできるスタッフをもっと増やして欲しい」との回答が寄せられました。一方、スタッフの中にも手話を学んでみたいという意見が多数あったため、その解決手段の一つとして、当協会の職員、中でも受診者に接する機会が多い健診スタッフが中心となって手話講座を開催することにしました。



Q 手話講座のプログラムは？

今回開催した手話講座のプログラムは、福島市が主催している手話出前講座のものを活用させていただきました。市では、平成31年4月1日に手話言語条例を制定したばかりで、当協会が手話講座を検討し始めた時期と丁度同じだったので、講座開催

に向けての準備は比較的スムーズに進みました。また、講座内容については、市が当協会の要望を含めた構成でのテキスト作成に協力してくださったため、手話を表現できるプログラムをより実践的に構成することができたのではないかと思います。

Q 今後の展望を教えてください。

福島市の条例名称にもあるように「手話は言語」です。言語である以上、会話できるようになるまでには多くの時間を費やします。しかし、少なくとも自分たちの意思を手話で表現できれば、聴覚障がい者への理解を示し続けることは可能です。当協会では、聴覚障がい者の方が健診会場で抱いていた不安を少しでも取り除き、安心して受診していただけるように、手話での対応を

進めていきたいと考えています。また、今回の手話講座は福島本部だけでの開催でしたが、県内59市町村の健康診断を担当している当協会としては、出先機関である地区センターにも水平展開して行く予定です。これら障がいの有無にかかわらず、受診者に寄り添い続けることが、当協会の健康診断のあり方であることを県民のみなさまに発信して行きます。

PROFILE

公益財団法人 福島県保健衛生協会 会長

鈴木 順造 (スズキ ジュンゾウ)



「天網恢恢疎にして漏らさず」(「老子」第七十三章中の一句です)

天の神が地に張り巡らした網は、ゆったりして粗いようであるが、悪人を漏らすことはなく、悪事を行えば必ず捕まえられ天罰をこうむることを意味しています。理想的な社会の在り方、人としての生き方を示す教えとして、大切にしております。誠心誠意努力する正直者が報われる組織作りに尽力したいと思っております。

放射能測定事業の紹介

東日本大震災による福島第一原子力発電所の事故発生から8年が経過しました。

今もなお放射能に不安を抱える方が沢山おられます。

ここでは、事故発生以来当協会が実施している放射能測定事業について改めてご紹介いたします。

放射能測定の体制について

測定器の特徴

当協会が導入している『ゲルマニウム半導体検出器』はγ線放出核種を精度良く測定する装置であり、放射性セシウムや放射性ヨウ素などを測定することが可能です。この装置は簡易測定器に比べて物質を識別する能力が格段に高く、核種別の同定・定量能力が極めて優れていることが特徴です。そのため、簡易測定器では不可能な放射性セシウムCs-134とCs-137の分別検出も可能です。



測定対象

食品、飲料水、飼料、肥料、土壌、汚泥、廃棄物など、様々な対象物を測定することができ、広くお客様のご要望にお応えすることが可能です。



検査のご案内



当協会では精度の高い放射能測定を行うための体制を構築し、放射能測定事業を通して福島県民の安全・安心に寄与していきたいと考えております。放射能測定の検査料金は、検出下限値の違いにより通常測定と精密測定を設定しています。この他、さらに低い検出下限値での測定やその他の核種測定も可能です。検査のご依頼、ご相談などがございましたら、下記にお気軽にお問い合わせください。

お問い合わせ窓口

医療・環境衛生部環境衛生課 TEL:024(546)0561

検査依頼書は当協会ホームページよりダウンロードできます。

3D マンモグラフィ

ってご存知ですか？



乳房の断面を撮影できるマンモグラフィです。

細かい断層像が得られるため、従来の機器よりもより多くの情報を得ることができます。

乳がんの早期発見には有効な装置で、期待するところが大です。

人気の理由

01

確かな知識・技術を有する
女性スタッフが担当なので
安心だから

受診者の声

- 初めての検査なので、不安と恥ずかしさがありましたが、その心配は無用でした。(初回、40代)
- 検査の前に丁寧に説明してくださるので、安心して受診できました。(3回目、40代)

スタッフより

当協会では認定資格を有する女性スタッフが検査を行います。乳房の形・大きさ、状態はそれぞれ違いますので、最適な検査ができるように、お声掛けをしております。また、乳房に関することで何か不安なことがありましたら、お気軽にご相談ください。

人気の理由

02

乳房の圧迫痛が
従来のものより改良
されているから

受診者の声

- 想像していたより、痛みが少なかったのでホッとしました。(初回、40代)
- 以前は、ヒンヤリとして機械的な圧迫が強いイメージでしたが、ソフトになりました。(2回目、50代)

スタッフより

現在の機器は、肌に触れる部分の形状・材質が改良されております。また、撮影時間も1回あたり10秒程度なので、思ったより痛みが少ないとお声をいただいております。

人気の理由

03

検査の申し込みは、
当日でも可能
だから

受診者の声

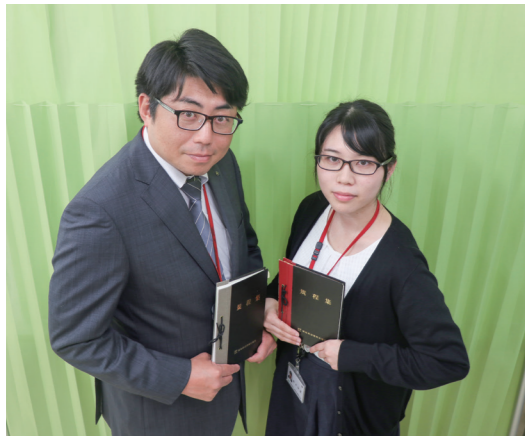
- 検査当日に説明を受けて検査したいと思い、追加で申し込みました。(初回、40代)
- 気が楽！検査料金もリーズナブルだし、提出物や事前準備の必要がないのが気に入りました。(4回目、40代)

スタッフより

乳房検査を受診される方のみ追加できます。通常のマンモグラフィ料金にプラス3,000円(税抜)で検査が受けられます。ただし、授乳中やペースメーカーが入っている方など、検査できない場合がありますので、お問い合わせ時にご相談ください。

結果、3Dマンモグラフィはおススメです！

総務部総務課人事組織係



人事・組織係は、今年度新設された係です。職務の主な内容は、職員の採用や教育、諸規定の制定や改廃、人事考課、公印管理、文書管理、社内報などです。中でも今年度の職員採用試験では、新卒等一括採用とは別枠で即戦力となる民間企業等職務経験者向けの中途採用試験を実施するなど、採用試験に変化を加えました。

また、ホームページ上では従来の情報更新に加えて、新たに職員の活動記録を追加し、ワークライフバランスの実現を外部へ発信するなど、情報アンテナを高くして取り組んでいます。当係では、今後も内外問わず、時代や環境の変化に応じて迅速に対応し、行動していく所存です。

健診事業部事業企画課



職務内容は、中・長期的な経営計画を作成し、それをもとに必要となる事業の企画・立案を行います。また、営業戦略(仕組み)を構築し、内部職員の教育を徹底させて、渉外担当者の販売促進(仕掛け)を支援します。さらに、県や市町村、各保険者との情報共有を密にし、制度改正などに対して実施体制を整えます。これらを通して、マクロ分析のもとに想像力を最大限に働かせ、目的と手段を明確に整理してCAPD*サイクルの歯車を動かす原動力になる活動を行ってまいります。

*CAPDサイクルとは、現状の評価、分析(Check)を行い、顧客と相互利益が得られるよう仮説を立て(Action)、土台を整えてから本来の計画(Plan)を構築し、実行(Do)に移すこと。PDCAサイクルとは異なる。

私

たちが

担

当

です!

複十字 シール 募金運動

期間

令和元年

8/1 ▶ 12/31



世界では、総人口の約4分の1の人が既に結核に感染しています。結核は過去の病気ではありません。複十字シール運動は、結核を中心とした肺の病気をなくして、健康で明るい社会をつくるための運動です。その

実現のために募金活動を行うとともに、病気への理解を広め、予防の大切さを伝えています。シールに込められた結核予防への思いが未来に受け継がれることを願って、復刻版シールをつくりました。

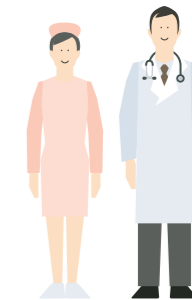


SUKOYAKA BIYORI

健やか日和



震災から8年半が過ぎ、福島県民の最大の課題は健康指標の改善です。福島民報社からの依頼を受け、『健やか日和』のタイトルで、4月から半年間にわたり保健師や管理栄養士が手分けして執筆しました。食事、身体活動、健診など身近な生活習慣について考えるきっかけになればという思いで、日頃慣れない原稿用紙と睨めっこの日々でした。

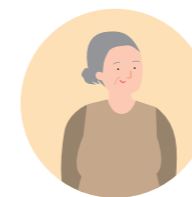


執筆者より

福島県民の健康指標の悪化が問題視されている中、私たち健康支援課では、一般の方にも解りやすくお伝えしたいと考え、専門用語をできるだけ使用しないよう工夫し、担当医師指導の下で執筆しました。早期治療・早期発見も大切ですが、病気になってしまう前に、自分自身の日常生活を振り返り、乱れているところがあれば、改善する努力が必要です。とくに生活習慣病は、一度習慣化した

生活の一部を変えて行かなければならないことがとても難しいところです。解決策は、健康的な生活習慣を若いうちから身に付けて行くしかありません。このような思いを抱きながら、県民の皆様のお役に立てるような健康情報を伝えていくことにしました。福島県をみんなで元気に、健康に行きましょう。

読者の感想



喜多方市の60代女性読者より

「健やか日和」が始まってから、記事を切り抜きして保存し、毎日の健康管理を考えるようになりました。そのことにより、加齢とともに生活習慣病との関わりがいかに重要であるかを知りました。



禁煙対策に取り組んでいる行政の方より

タイミングよく「タバコ」をテーマにした記事が掲載されたので掲載記事を周知しました。毎日の「健やか日和」を楽しみにしています。



健やか日和のスクラップ用健康ノートの利用状況 (福島民報社より)

約5,000人の読者がスクラップ用健康ノートを利用しています。

